

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3290100696		
法人名	特定非営利活動法人しあわせサービス		
事業所名	グループホーム花にしかわつ		
所在地	島根県松江市西川津町699-3		
自己評価作成日	令和4年8月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/32/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3290100696-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 保健情報サービス		
所在地	鳥取県米子市米原2丁目7番7号		
訪問調査日	令和4年8月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利便性の良い閑静な住宅地にあり、地域の医療と連携を取っている。 地区自治会とも良好な関係を保ち、今後更に積極的な交流活動を目指している。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>松江市内の閑静な住宅街に立地する開設5年のグループホームです。 看護職の資格を持った計画作成担当者が在籍されており、利用者の健康面の変化に留意し、地域医療との連携を図りながら、安心・安全な毎日が送れるよう配慮されています。 それぞれの利用者が自分のペースで過ごして頂けるよう、ゆったりした時間の流れで、急かすことなく支援されています。 日々の食事も楽しみとなるよう工夫を凝らし、季節ごとの行事食も用意されています。 ホームでの暮らしぶりは、毎月の「花にし通信」に掲載し、家族の皆さんにも送付されています。 コロナ禍による面会制限も続いている状況ですが、家族へは電話連絡をし丁寧な対応を心掛けておられます。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を常に見える所に掲げて朝礼時に唱和を行い、職員全体で共有実践につなげている。	事業所理念に基づき日々実践できるよう共通理解の場を持ち努め、実践に綱がておられます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の集まりに参加し、理解が得られるよう交流を図っている。また、ホームの行事にボランティアの方も参加してもらい利用者で交流していただいている。コロナ禍により交流が難しくなっているが、可能な限り継続出来る様心がけている。	現在はコロナ対策の為、外部との接触は控えておられますが、以前は芋掘りや松江交流会館のイベントにも出かけたり、社会福祉協議会からボランティアの紹介もあり、交流されていました。コロナが終息時には以前のような交流を行う予定です。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	相談に対してアドバイスを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に一度開催し、利用者の状況、行事報告などを行い、委員の意見等を施設の運営やサービスに活かしている。コロナ禍により本年度も書面にて開催。	現在はコロナ対策の為、2ヶ月に1回書面開催し、ホームの状況や行事報告等を行い、ご意見等頂きサービス向上につなげておられます。対面開催ができるようになれば、警察・消防の方に危機管理について話を頂く機会を予定されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村担当者と連絡を密にとり、情報共有を行い、協力関係を築くよう努めている。	市の担当者や地域包括職員とは連携を取り情報共有されています。日頃の連絡はメールでやり取りが行われています。コロナウイルス対応の研修はZOOMで行なわれておられます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員を対象に「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」について繰り返し研修を行い理解をしている。玄関は内部から出られるようにしており身体拘束をしないケアをしている。	身体拘束廃止委員会議は運営推進会議の際に行なわれています。身体拘束の施設内研修も行なわれています。職員同士で身体拘束や言葉遣いについて気を付けておられます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修により学ぶ機会を持ち、虐待を見過ごすことのないよう注意を払っている。	法人としての虐待防止の指針は策定されています。研修を行い、虐待について学ぶ機会が設けられています。職員間でも虐待にならないよう注意し合っておられます。	令和5年度までに虐待防止委員会の設置、会議の開催、議事録の準備を進めていただくよう望みます。
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修などで制度について学び、必要なケースであれば提案していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に丁寧に説明し、後日でも疑問点等あれば対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	アンケートを行ったり意見箱や面会時の話などから意見や要望を伺い運営に反映させている。	現在は面会はコロナ対策のため窓越しですが、家族の方に意見・要望を聞いておられます。また、毎月の通信で日々様子を伝えておられ、電話連絡を行い意見・要望を聞いておられます。評価見直しの際にも連絡されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案について話し合い運営に反映させている。	毎月全体会議が行われ、ホームの運営や利用者の様について話し合いが行なわれています。感染予防を行ないながらのドライブに出かける提案も職員からありました。理事長、管理者と話し合う機会もあるので、職員の意見も届きやすいです。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情も考慮しながら働きやすい条件を整えている。また給与水準の引き上げ、時間外労働の抑制を図っていて、職場環境の改善に努めている。	定期的な処遇改善が実施されており、ワークライフバランスを考慮した働きやすい職場作りを心掛けておられます。時間外労働や有給の管理等もしっかり行われています。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加や日々の業務の中で職員個々の経験や介護技術を教え合うことでスキルアップを図っている。	従来より、必須研修はもとより、職員一人ひとりに応じた内外部の研修が行なわれています。現在はオンライン開催の研修が中心になっています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修などを通して同業者と交流する機会を持ち、意見交換を行いスキルアップを図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	共感しながら本人の話を傾聴し話しやすい雰囲気を作り、安心していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の話を良く聴き、疑問に丁寧に答えることで信頼していただけるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	一番の課題やニーズは何かを考え、必要なサービスを組み合わせ提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	時には知恵を借りたり助けをもらうこともあり感謝の気持ちを持ち、対等の立場で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が本人を思う気持ちを尊重し、相談しながら共に支援にあたっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により面会はガラス越しで行っている。会うことの出来ない知人とハガキのやり取りをされている方もいる。馴染みの場所へは感染防止に努めながら、外出支援を行っている。	感染予防対策の為、家族の方との面会も窓越しが継続しています。馴染みの場所等へも車で出かけ、車内から見て帰ることが中心になっています。また、リアルでお会いできない方とはお手紙等出失りとを継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の様子を見守り、時には職員が間に入って良い関係性が保たれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された後も気かけ相談に乗っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ここでどういうふうに暮らしていきたいか、本人の意向を聞いている。また、ご本人のことを良く分かっておられるご家族の意見も参考にしている。	職員の異動も少なく安定した人間関係を築きながら、日々利用者の思いや意向を把握できるように耳を傾けておられます。また、家族の方にも核にするようにされています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでどのような生活をしてこられたのか基本情報や本人や家族の話から理解するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日生活されている様子を観察し現状の把握をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメントや担当者会議で課題を探り、関係者の意見も取り入れながら介護計画を作成している。	全体で利用者の状態の報告や相談をしながら、医師や家族の意見も聞きながらプラン作成が行われています。モニタリングは毎月、プラン見直しは概ね半年、あまり変化のない方は1年の方もありません。変化が見られる場合には都度変更されています。看護職である計画作成担当者が中心にリハビリの計画も作成しておられます。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートを利用し情報の共有を図っている。	個別記録や申し送りノートに記入し職員間で情報共有するようにしておられます。一人ひとりの留意点については※を付け、しっかりチェックするように配慮されています。特に退院の際に気を付けてもらうようにしておられます。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況の変化に応じて柔軟な対応を心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	それまでのつながりを途切れさせないように配慮している。コロナ禍により自粛している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望されているかかりつけ医への受診を支援している。	かかりつけ医については、利用者・家族の希望に沿って従来のかかりつけ医を利用して頂いています。かかりつけ医によっては定期の往診があります。歯科も個別に受診されています。往診のない場合には家族や職員が対応されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が気づいた変化はすぐに看護職に報告し相談して受診につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に経過や現状、既往歴などをきちんと説明し、退院時には入院中の様子を聞き退院後の留意点などについて相談している。	入院時には地域連携室と連絡を取り、利用者本人の情報提供を行ないスムーズな入院となるよう個々懸念掛けておられます。退院時にはカンファレンス等でホーム帰宅での留意点等について話し合われます。	
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	前もって本人や家族の意向を聞いて医療機関とも連携をとりながら対応している。	利用開始時には重度化・終末期の対応について、利用者・家族に説明が行なわれ、同意を得ておられます。看取り対応は現在行なわれません。重度化や終末期迎えた場合には、医師の意見や家族の希望に沿った対応が行なわれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署から来ていただき、救命救急の講習を受け、いざというときに適切な対応ができるように努めている。コロナ禍により講習会は自粛している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害発生時における避難訓練を行い、職員の危機管理意識の向上に努めている。	避難訓練は年2回実施されており、内1回は消防署立会いの基実施されています。緊急連絡網も作成されており、備蓄も用意されています。	BCP計画は作成中ですので、早期の完成を望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修を行い振り返りの機会を持ち、丁寧な言葉遣いを心掛け、プライバシーに配慮して声掛けを行っている。	接遇研修が行われており、職員同士で不適切な言葉掛け等がないように注意し合っておられます。居室は個室対応になっており、個々のプライバシーは守られています。入浴・排泄時にはマニュアルに沿ってプライバシーに配慮されています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃から話しやすい雰囲気づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れが決まっている中でも、本人のペースを優先するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	それぞれのこだわりを尊重し、本人に選択していただいてアドバイスをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を表示、説明し楽しみに待つ雰囲気づくりをしている。調理の下ごしらえや片づけなど出来る方には一緒にしていただいている。	利用者に応じて食事の準備や片付けもして頂いています。食事に時間のかかる方の場合でも、本人のペースに合わせて、ゆっくり食事をして頂いています。プランターでの野菜の栽培も行なわれています。行事食は季節ごとのあり、通信にも載せておられます。誕生会も開かれ、手作りのおやつも楽しまれています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導のもと食事量や形態などを決め、水分も含め摂取量を毎日記録して過不足のないよう気を付けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	介助の必要な人は職員が行い、自立の人には声掛けをしている。	利用者全員、毎食後の口腔ケアが行われており、入れ歯の方も口腔内の清潔保持に気をつけておられます。必要に応じた介助が行なわれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時の声掛けや手伝いを行い、尿意や便意のある人にはトイレへ移乗し排泄をしていただいている。	排泄チェック表を基にそれぞれの排泄リズムを把握しておられます。利用者に応じた対応が行湧荒れています。全員トイレでの排泄が継続されています。居室内にトイレがある事で、トイレ誘導の声掛けもスムーズです。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の摂取量を記録により把握管理し、毎日の体操に腸の働きを促すものを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の予定はあらかじめ決めてあるが、その日の本人の希望や体調によって柔軟に対応している。	基本的には週に2回以上入浴頂ける様にされています。汚染時にはその都度対応されます。入浴拒否傾向の方もありますが、曜日の変更等工夫をしながら対処されています。重度化された場合には機械浴の対応が可能となっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や就寝時間は本人の生活習慣を尊重している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	それぞれの服薬状況は確認・記録し介助の必要な人には介助を行い、確実に服薬できるようにしている。	薬局から分包した状態で配達され、看護職と職員によるチェックを行い、しっかりと服薬管理されています。薬の内容は個人ファイルに保管されています。服薬の変更があった場合は、計画作成担当者より職員に伝達し、利用者のチェックを行い、変化があれば報告され、かかりつけ医の指示を仰がれています。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	してこられた仕事や趣味、好きそうなことなど伺い、向いていそうなことを提案し受け入れられればいただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診に合わせた外出やお花見ドライブなどを行っている。また本人の希望を聞き家族との外出や外泊ができるように調整している。コロナ禍により外泊等は自粛している。	コロナ禍以前は、日々食材の買い出しの際に一緒に出掛けや季節のドライブ等利用者の希望に応じた外出を行われていました。コロナ禍の現在は、受診に合せた外出やお花見ドライブ等、感染予防を取りながら行われています。ホーム周辺の散歩や玄関前のお庭でお茶を楽しまれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が所持したり、希望で預り使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の意向も聞きながら対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔を心掛け、季節の花を飾ったりこまめな温度調整など行い、落ち着いて過ごせるようにしている。	採光も十分採っており、カーテン等で調整しながら、温度や湿度調整、換気が行なわれています。清潔な状態が保たれ、館内は定期的に消毒も行われています。季節が感じられるような設えも行われています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルの位置を工夫することで思い思いに過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	それぞれが使い慣れたものを引き続き使えるようにしている。	使い慣れた馴染みの物を持ち込んで頂き自分の部屋として居心地良く過ごして頂ける様に設えておられます。ベッドの位置やエアコンの温度調整も個々に合わせて行なわれています。自分の部屋として、できる方は自分で部屋のゴミを捨てや掃き掃除も行われています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	表札や目印をつけたり、ベッド柵や手すりなど本人に合わせて「できること」「わかること」を増やすようにしている。		